

# 友情の輪ガッチリ

## 大総小学校なわとび大会



途中でひっかかってしまった子は応援にまわる

手軽に楽しめるなわとびで体力づくりをすすめようと、2月18日、大総小学校（高橋英臣校長）で全校なわとび大会が行われました。

連続二重とび、あやかけとびなど、いろいろな競技が行われ、子どもたちは汗びっしより。「がんばれ、負けるな」の大声援。友だちの優勝に涙ぐむ子どもたち。

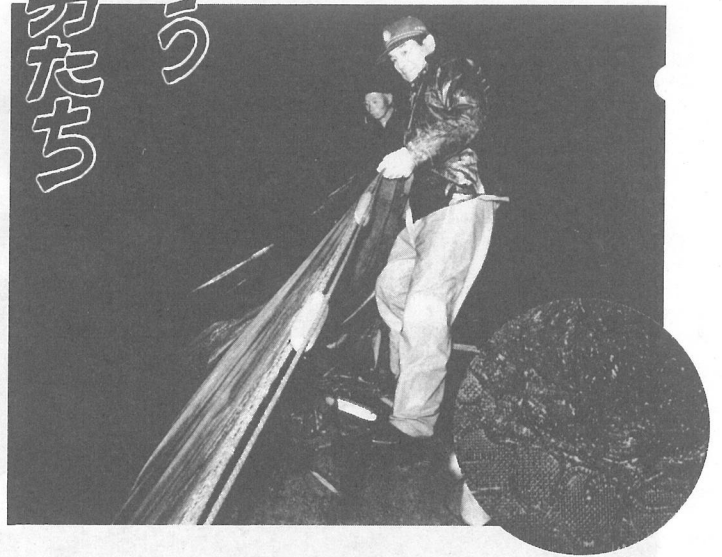
いつまでもその気持ちを大切にしてもらいたいものです。

# しらすを追う 海の男たち

大寒の漁であるしらす漁（うなぎの稚魚）は、今が最盛期。寒さが痛さにかわる午前2時、漁は続けられる。やがて明かりを求めて、透明な姿を浮び上がらせる。感動の瞬間だ。

「今年は暖冬の影響で不漁だった」と語る。

海に春の訪れの感じられる頃、漁は打ち切られる。



## 文芸

### 俳句

日だまりに洗ふ花菜や春どなり 海保 きみ

早春や娘がきらめかすネックレス 鈴木 草庵

おみくじの結び目ゆるむ春隣 鈴木 南知

薄氷を無心につつく杖の先 戸村 静華

早春や濯物の裾未だ重し 行方はじめ

畦蔭に結ふうすらひの幾何模様 成田栄三郎

研ぐ米の指にこたへて春は来ぬ 藤代 ゆう

薄氷を押すや底水あがりくる 山口 一秋

松とれし朝に昭和も終りたり 若梅あやめ

薄氷や小草綴じたる水田辺り (選者) 土屋 栗水



### 短歌

手をとれば涙ぐむ友病院の窓に 黄葉のこやみなく散る 齊藤 要

カーテンのレースを透かす冬日 差しテーブルクロスの上に揺るるも 齊藤 佳子

骨の癒合どこまで成りしか望み 持ちレントゲン室のノブに手触るる 齊藤 幸子

古い父に満期となりし定額の貯金を一部送りてやりぬ 佐瀬 初音

おしなべて芝草枯るる砂丘をひとり歩めり起伏を越えて 津田 若菜

山茶花の咲きつらなれる分離帯 時速百キロの車往き交ふ 土屋 栗水

下顎をあげて吾が手に寄り添へる犬の和毛の爪かに温し 西山満里子

砂浴びの雀掘りたる丸き穴冬日を溜めていくつか並ぶ 萩原 信一

背の曲がる嘆きを詠みし歌みれば 努めて背筋のばして歩く 吉岡 信子

夫は癒え友の夫逝く同じ時同じ 病院に病む身養ひ (選者) 齊藤つね子